



地本NEWS

2015年
7月22日
自治労北海道
網走地方本部
2015第14号

「平和な社会」を次世代へ

戦争関連法案を廃案に追い込もう

『戦争関連法案』は廃案だ！

7月1日〜3日、東京都で「戦争の廃止を求め中央行動」が行われ、道本部から25名（網走地本から1名）の仲間が「座り込み行動」「院内集会」「国会前集会」に参加しました。

結団式では、自治労組織内・えさきたかし参議院議員から「憲法9条がノーベル賞候補になっている。世界が認めている9条を変えよう」としているのは国内だけ。子どもを戦場に送ることに多くの母親が反対している。戦争は必ず止められる。それが社会の流れだ」との激励のあいさつがありました。

『座り込み行動』は、あいにくの雨の中での行動となりました。『北海道院内集会』では、「安保法政を読み解く〜安倍政権の狙い」と題した講演を聴き、あらためて、戦争関連法案の危険性を学び、『戦争



法案反対国会前集会』では、1800人の仲間と「改悪改憲反対」「9条壊すな」と平和憲法の堅持を訴えました。

今回の行動に参加した斜里町労連・笹峯さんから、『今回の行動中は悪天気のため、座り込み行動が1日のみとなってしまいのみとなってしまいました。残念でした。ただその代わりに「我が国及び国際社会の平和安全法制に関する特別委員会」を傍聴することができ、単組ではなかなか知ることができない細かい部分の議論を直に聞くことができました。

また、応援にかけつけた、あいはいらくみ議員をはじめ、多くの民主党国会議員と接することができ、教宣紙でしか見ることのない議員を身近に感じられる機会となりました』と感じる



労働組合の政治運動の必要性を感じ、単組や地本での運動に活かしたいと思いました』と今後の組合活動への抱負と合わせて参加報告がありました。

戦争する国にノー！平和を求め反対集会

「平和の願いを網走から」と、「憲法改悪を許さず戦争をさせないオホーツク委員会」は18日午後6時、道の駅「流水街道網走」付近の南中央道道網走港線で安全保障関連法案反対集会を開きました。



戦後の日本の安全保障政策を大きく転換させる安全保障関連法案が衆議院で強行採決されたことを受け、同法案の廃案や慎重審議を求める市民ら約150人が参加しました。

主催者挨拶では「衆院は強行採決されたが、まだまだやれることはある。私たちの行動は無駄ではない。子どもたちに戦争をさせないため、網走からも声を上げていこう」と呼びかけ、また、参加者らが思いを語る平和アピールでは、「多くの国民が反対する法案の強行採決は民主主義の破壊だ」「小さな変化が積み重なり、戦争できる国が生まれる。今こそ反対の声を上げよう」と語られました。

その後、参加者は「平和憲法を壊すな」「戦争法案反対」などとシュプレヒコールを繰り返して、「最後の最後までたたかうぞ」と怒りの声を挙げ、集会を終了しました。